

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年8月27日(火) 15:30～(20分ほど) 前回不参加の子3名含め7名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語版「はらぺこあおむし」を読み聞かせ(英語講師)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前回の読み聞かせ時、英語で読んでほしいと子どもたちから意見が出たことを思い出してもらい、英語本の読み聞かせに繋げる。子どもたちの様子に共感の姿勢で共に読み聞かせを聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

『はらぺこあおむし』の英語本を英語講師が読み始める。

「Show me please」を促すと本に目を向ける。読み始めると講師の読む内容、指で示す数には英語で答える。それを聞き、自分が知っている数「Ten」を言い出す子もいた。食べ物がたくさん出てくる場面では、講師が絵を見せると「お腹すいたよ」と場面に合わせたことばを発する様子もあり。

「This one?」の問いかけに「メロン」と答えられる子もいた。さなぎになる場面では「みどり色になっちゃったよ」→「みどり星人」と色からイメージした単語を発する。また、まゆの場面では講師が「Cocoon」と示すが、復唱するものの色に繋げて「うんち」とふざける子もいた。ただ最後のページでは、内容を知っているので、ページを開く前から手で蝶々を形作り「バタフライ」とそれぞれから単語が出てくる。他何名かも手で蝶々を作ったり、飛び立つ様子に気持ちがわくわくする様子を見せる子もいた。「やった～、やった～」「バタフライ」「蝶々のあかちゃんいるね」など、おもしろいことばを口にしていた。保育者は子どものことばに共感の意を示しながら英語講師のことばを復唱したりする。

また蝶々のどの色が好きかと講師からの英語の問いに、理解できていない子もいたが、問いかけ直されて、英語で好きな色を答えていた。最後に本をパタパタさせると、それぞれが楽しそうな様子を見せる。

お話を英語でも自分のイメージに繋げて、思ったことを口に出すことができる子もいるが、促されて復唱する子もあり、興味が薄かった様子の子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本語、英語で反応に差はあったが、日頃から英語指導に参加していることで、講師の言っている言葉を結びつけることができている。バタフライ等、知っている言葉は英語でいう姿も見られ、普段は英語指導に消極的な姿も多いと思っていたが、子どもたちの中ではしっかりと理解できていて良かった。部屋が狭かったこともあり、動きに制限があった。子どもたちが自由に動ける場所の方を考えたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目 5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなになっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年10月17日(木) 15:30～ (30分ほど) 2歳児室 5名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日本語版『できるかな』（エリック・カール）読み聞かせ
パペットや食べ物アプリケ、他のエリック・カールの絵本日本語版、英語版数冊設置

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

まず絵本『できるかな』の読み聞かせを行う。また室内にその他の絵本や玩具を配し、自由に遊ぶ子どもたちの行動を見守る。その中で、問いかけや共感などしながら、子どもの行動に合わせて一緒に遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

担任が「できるかな（エリック・カール）」の絵本を見せる。知っている？に「知らない」と答える。また絵本を逆に持つと「はんたい」「ちがう」との発言あり。読み聞かせにはその都度反応をして、できる？には「できない」と言ってみたり、出て来る動物の動きに合わせて同じように体を動かしたり、同じ言葉を繰り返して言ってみたりしている。絵本の内容を理解し、とても集中して楽しむ姿や発言が見られた。「たいそうみたいだなー」と感じたことを述べる子もいた。

部屋の中に置いておいたパペットやその他の絵本、食べ物等のアプリケもあると示すと、さっそく手を出し始める。好きなパペットを動かしながら「ばお～ん」と鳴き声を発してみたり、ペンギンの絵をみせると「おんなじ」との発言。また猫の絵はどこかの問いに、「何ページかわからない」としながら、見つけると「にゃお～ん」と鳴きまねをしたり、英語で何というかの問いにひとりは「クロネコヤマト」と連想したものを言い、ひとりは「キャット」と答えていた。また別の子もゾウを英語でと問うと、「エレファント」と答える子もいた。サルのパペットを持っていたため、絵本ではどこにいるかを問うと、自分でページをめくりパペットと絵は色が違うと気づいていた。英語をよく覚えていることを担任がほめると、頷き嬉しそうにする姿あり。そこからまた別の玩具にも目を向け、遊ぼうとし出す。

そこから積木で遊びだしたり、パペットや食べ物アプリケを使ってお店やさんのごっこ遊びに移行していく。ひとりは写真の付いた絵本をみつけずと手に持って、保育者と絵の図鑑を見ながら、物の名前を言いあててやり取りを楽しむ。その中では英語で表現することもあり。

『できるかな』の歌を流すと、その動きをやることもあったが、歌の歌詞を読み取り、絵本と合わせてはページをめくる姿もあった。

それぞれ、飽きることもなく会話をしながら遊ぶ様子が見られた。最後はままごとの組と歌で遊ぶ子の二手に分かれる。自由さがある分なのか、徐々に動きも活発になっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが持っているものに対して、問いかけをするようにした。英語で応答する子もいれば、日本語で応答する子と様々だった。また子どもたちから発せられた言葉を、繰り返して言うようにした。パペットやアプリケを使って、ままごとに発展していくと、会話も多くなりことばのやり取りが出来ていて良いと思った。また子どもたちの生活の中で体験したことが、つながっているなど感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年10月21日(木) 15:30～(30分ほど) 2歳児室 3名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日本語版『できるかな』(エリック・カール)読み聞かせ
パペットや食べ物アプリケ、他のエリック・カールの絵本日本語版、英語版数冊設置

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

まず『できるかな』の読み聞かせを行う。設定している絵本や玩具を示し、子どもたちの行動をみまもる。その中で、問いかけや共感などしながら、子どもの行動に会わせて一緒に行く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

3人と人数が少なかったためか、まず保育者の声掛けにすぐ応じ、読み聞かせの絵本に集中する様子が見られた。動きのことば（擬音）に合わせて同じように体の部位を動かしたり、その擬音を発したりする様子もあり。また動物を見て連想したことを口にする子もいた（父がその動物をすきなこと、おおきなぞうさん見たことある。等）。絵本の終わりまで、しっかり絵本を読む保育者に対面しながら、会話しつつ、動きを真似して楽しんでいた。

その他の絵本、玩具、パペットを部屋の周辺にすでに設置しておく。読み聞かせ後は、「じゃあ、これやろう」と言い、パペットやパズルの積み木の方に映る。

積木で遊びながら「これはなんのかたちだ?」「どうやってやるの?」など聞いてくるが、同時に歌を流してみるとすぐパペットに戻り使います。ぞうのパペットを持つと「パオ～パオ～」と言って動かしたり、食べ物アプリケを使い果物の名前を言ったり、次々と遊びが変わる。

その後ひとは、歌の歌詞に反応し、歌に合わせて体を動かす様子あり。歌詞の擬音と動きは合っており、理解が伺われる。飽きずに思いきり体を動かしていた。さらに食べ物アプリケで名前を言い手に取るが、保育者の「これは何語?」に「わからない」とし、誰に聞けばよいかと尋ねると、「カトリーナ先生」と答えていた。またおにぎりは英語で何というかわからず、今度カトリーナ先生に聞いてみようかと促す。ちょうどカトリーナ講師が通りかかったため、尋ねると「ライスボール」と教えてくれる。一緒に言ってみる。

ことばの発達が遅めの子も、食べ物アプリケで名前と形は理解し、手に取り「アイスクリーム」「あむあむ」等言い、アイスクリームにいちごのアプリケをのせて見せてきたり、食べる真似をする。その他の食べ物アプリケも「バナナ」「あむあむ」と言って食べる真似を繰り返している。自分の表現できる言葉と動きで遊んでいる。

もうひとはパズルの積み木を何度か触っていたが、どのように組み合わせるが聞いてくる。積木の色や形を問うと、日本語で紫、赤等言う。ただ、太陽の絵をみると、自分から「サニー」（晴れ）と英語で答える。普段の英語活動と結びつく場面があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段、いろいろなことに興味に移りやすい子たちだが、少人数では落ち着いて過ごすことができていた。1班めと同様に問いかけを多くしたが、その問いに対し、どうにか答えようと考える姿が多く見られた。言葉から擬音などを連想することを繰り返し行って、子どもなりに結び付けて楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年11月27日（水）16:30～（30分ほど） 2歳児室使用 4名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語の絵本、イングリッシュカード、アプリケを部屋に設置する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵本、カード、アプリケを設置する。子どもたちに部屋の中にあるもので遊ぶことを声掛けする。その様子を見守りながら、子どもたちからの問いかけに応じたり、また子どもが興味を示したことに問いかけていく。普段英語レッスン時に使っているカードを使いながら、子どもが知っている英語の単語やフレーズでやり取りする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

部屋に入ると、普段の英語レッスンで使っているカードを一人の子がいち早く見つけ、並べながら他の子に「見て」と声をかけている。もう一人一緒にカードを手にする子と共にカードをめくりながら、知っているイラストを英語の発音で言い出す。するともう一人の子がその発音をまねて繰り返す。保育者も一緒に発音して楽しむ。

イラスト名を言いながらほぼ並べ終わると、保育者にも「見て」と呼びかける。何度も見ても単語を発音していた。持っているカードは何か保育者が問いかけると、それに応じて答える。またカードを発音しながら楽しそうに並べる様子もあり。この子は最後までカードで発音をしながらずっと遊んでいた。

また別の子は食べ物アプリケを手にとりだしたので、保育者がその形が何だろうかと問いかけると、そのアプリケの名前（もも）を言っていた。また同じ形のものを選んで保育者に教えている。

しかし、別の子にアプリケの殆どを持っていかれたため、「はらぺこあおむし」の絵本を手にし、読んでほしいと要望する。その絵本には何語が書かれているか問うと、「英語」と答える。英語記載の絵本だったため、保育者も英語で読みつつ、子どもに出てくるものの名称を尋ねる。それに応じて答えたり、自分も発音して、一緒に絵本を見ることを喜ぶ姿あり。最後までやり取りをしながら読んでもらっている。

カードから離れた子はアプリケを使いだし、その形の名前を保育者に向かって言って見せていた。もう一人はなかなか集中しなかったが、保育者と英語の絵本を見てやり取りする様子もあり。



2枚
の



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが持っている物について問いかけをするようにした。英語で応答する子もいれば、日本語で応答する子と様々であった。また子どもたちから出たことばを繰り返して言うようにしてみた。食べ物アプリケを使ってままごとに発展していった。その中では会話も多くなった。子どもたちの生活の中で体験したことがつながっているなど感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2024年12月17日(火) 10:00～(30分ほど) 2歳児室 7名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

英語の絵本、English card (絵)、日本語のかるた、絵カード(日本語・英語)を室内に設置。
保育者と英語講師の二人も配置に入る。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

English cardを並べ、子どもたちが自由に使えるようにする。子どもたちの問いかけに応えたり、ときに絵カードを見ながら子どもたちに問いかけていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

English cardを並べておくと、部屋に入るなり「たくさんある」と喜んで、数人がカードを見に行く。日本語かるたを見つけて手にしてみる子もいた。

2, 3人の子がCardをさっそく手に取り、知っている単語を英語講師に言ってみせ、Good、Niceと伝えられていた。またクリスマスツリーの絵カードを講師が見せ、「What this?」と問いかけられると、発音も良く答えている子もいた。

それぞれがまだ自分の好きな物（絵本、かるた、カード）を手に取ってみて、自ら問いかけることは少ないが、自分の好きな物を見つけて保育者や講師と一緒に読んでもらおうとしたり、やり取りの相手をしてもらい楽しもうとする姿が見られた。

またコアタイムで見たことのある絵本を見つけ、じっくり見る姿があり英語講師が読んであげると、喜んでことばを復唱しながら動きも付けていた。(Go away) 通常のコアタイムで行ったことが身に付いており、自信があるようで元気な声で返事をしたり、単語を言ったりする姿があった。

また日本語の絵カードに興味を示し遊んでいた子は、ひらがなを言ったり、絵の名称を言ったりしていた。英語では何というか保育者から聞かれると、英語で答える。またカードにClockと書いているが、時計の絵を見てWatchと答えることあり、自分の中にあることばを選んで話しているようだった。中には絵を見てカードを並べて遊ぶだけの子もいるが、絵とその名前（名称）を合致させながら楽しんでいる姿あり。

「これよんで」ともっと英語のお話を聞きたいことを示す子も、講師と一緒に数を発音してみる子、また他の絵カードを持って来て、「これなあに?」と聞いてくる子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもにより理解度が違い、好き嫌いの差もあるのだろうが、それぞれが知っている単語は自信を持って言っている様子が伺われ、これまでの英語コアタイムの活動が活かされていると思った。前回よりも「これは何?」「なんていうの?」と自ら尋ねる姿も多くなったように思う。講師がいたせいか、尋ねられるのはEnglish card や英語の絵本が多かった。普段のケアタイムの中でも、それらを利用していけば、もっと理解が深められるのではないかと感じた。また単語だけでなく、簡単なフレーズを話す場面もあり、講師と同席しながらの環境では子どもたちから多くの英語を含めたことばを引き出していけるように思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここわ保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】 日本語と英語の絵本をそれぞれ読み聞かせしながら、自分たちの話すことば、またその違いについて問いかけ、気づきを拾っていく。その気づきに合わせ、それにつながる絵本や歌、関連する生活の中の素材を環境として設定する。その中から物の名前だけでなくコミュニケーションや表現のことばに興味関心を抱き、英語、日本語だけでなく擬音語等も含め、様々探究していく。また自ら関わる楽しさや知る喜びを感じられるようにする。

<テーマの設定理由>

当園が継続して行っている保育活動の中の英語を生かしながら、そこから普段使っている日本語も含め【ことば】について興味関心を深め、いろいろなことばに触れる楽しさを感じ、表現したりコミュニケーションを取ったりすることが豊かなっていくようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年2月20日(木) 10:15～(30分ほど) 2歳児室 9名参加

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本読み聞かせ「はらぺこあおむし」「げつようびはなにたべる」
Englishi card 表情カード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

カードを並べて置き、子どもたちがすぐ見て手に取れるようにしておく。その中で、子どもたちとの会話から問いかけをしていく。（色、形、数字、感情の形容詞）子どもたちの遊びが落ち着いたところで、絵本の読み聞かせを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

部屋に入るとEnglish cardを見つけ、「英語セットだ!」と言う。さっそく手にして、カードに書いている数字や絵を見て、それを英語で発音する。普段から数を好む子はさっそく何枚かを手にし、保育者の「なんて書いているの」の問いに、「One、Two、Three…」と発音してみせる。そこへ他の子も来て、同じように発音する。

別の子は初めて使う表情カードを見つけ、保育者に「これなに?」と聞いてくる。保育者の方から「どんなふうに見える?」と問いかける。すると泣いている表情は「いたい」と答えている。またもう一人の子は、それぞれの表情にに対し、涙を流している表情は悲しい、笑顔は嬉しいなど、気持ちを表す形容詞で答えていた。形容詞を使えること、表情と結びついていることを認められ、嬉しそうにする。

さらにカードを裏返してクイズにしたり、カード合わせのような遊びにして、保育者に問うような話し方も出来ていた。そこから他児も加わり、遊びになっていった。ことばでやり取りしながら、自分たちで遊びを作り出して言っている姿が見られた。

最後に読み聞かせを行うが、「はらぺこあおむし」は皆で歌いながらページを進める。飽きる様子もなく、皆でしっかり見ていた。歌も良く覚えて、きちんとページに合わせて歌っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

英語のカードをさっそく手に取り、それぞれがカードに書いていることを英語でしゃべり出しているのを見て、普段の英語の活動での単語カードの有効性を感じた。また表情カードは、はじめ戸惑った様子もあったが、問いかえていくとしっかり読み取る子がいて、3、4歳の子どもとして、ことばとしっかりと結びついていることに成長を感じた。表情が良くわかることを認め褒めるようにした。嬉しそうな表情が自信につながったようだ。カードでクイズをする様子などは遊びを発展させており、英語、日本語を覚えるだけでなく、子ども同士遊びだすきっかけになったのは良かった。最後の読み聞かせでは何度も読んでいても良く集中しており、話、ことばを聞く姿勢にもつながると感じた。